



# 四日市看護医療大学 同窓会会報

令和6年10月発行

四日市看護医療大学同窓会事務局

Yokkaichi Nursing and Medical Care University

# Vol.12



## ごあいさつ

平成23年度卒業 寺尾 亮平

清秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2期生の寺尾です。早いもので卒業してから13年の月日が流れようとしています。そして、母校で共に学修した卒業生が7年目になろうとしています。私も含めですが、同窓生の多くが子育てに奔走しており、セカンドキャリアに進む・進んでいるのではないかと存じます。セカンドキャリアを考えるにあたり、看護を取り巻く環境が猛烈な勢いで日々変化しております。我が国の置かれている状況は、2025年問題（約800万人いる団塊の世代が後期高齢者（75歳）となり、国民の4人に1人が後期高齢者という超高齢化社会）に係る社会構造や体制が大きな分岐点を迎えております。これにより政府は雇用、医療、福祉等、さまざまな分野に影響を与えることで地域包括ケアシステムの早期構築を進めています。また、少し歴史をさかのぼると本大学は2007年に四日市市・市立四日市病院との公私協力方式により開学しました。当時の全国における看護系大学の数は157校だったのに対し、現在は300校を超えている現状です。一方で、猛烈な変化は病院をはじめとする医

療機関にお勤めの同窓生の多くがその実情をひしひしと感じておられ、看護系大学が増えたからと言って医療機関の人材の充実は感じられない、多くの患者が高齢者でせん妄や転倒・転落等のリスクがあり身体・心理的負担を感じて日々従事されているのではないのでしょうか。看護師のタスクシフトとして多くの医療機関で看護助手や介護福祉士が療養上の世話を看護師の指示のもと行っている現状もあります。特定行為の看護師も増えております。看護の独自性・専門性とは何か、社会的な看護のニーズはあるのか、問われているのではないかと考えております。このような日々の思い・葛藤など同窓生の皆さんとお話したい限りです。長くはなりませんが、多くの共に学修した仲間が同窓会役員に入っただき、またそれぞれの役割のもと従事されていることに喜びを感じております。大変な日々とは思いますが、私も次の目標に向けて動いております。常に前進あるのみ！でいきましょう。そして、時々には休みましょう。最後になりますが、皆様方がより一層ご健勝にてご活躍されることを心からお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。



## 学科長ごあいさつ

看護学科長 杉崎 一美 教授

### ◎コロナ禍を経験して

今夏は、例年以上に大変な暑さに見舞われましたが、看護学科の卒業生、大学院修了生の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び

申し上げます。

平成25年から同窓会が発足されて以来13年になり、卒業生は1536名、大学院修了生47名になり、月日の流れに驚くばかりです。新型コロナウイルス感染症については、いわゆる2類相当から令和5年5月8日より5類感染症に移行に従い、以前の授業体制であった対面講義・演習に戻り、学生たちはPC、ipadやスマホを持参して遠隔対応ツールを活用しながらの授業展開をしています。また今年度の新入生から電子教科書を用いることになり、全学年には国家試験対策として同窓会の

ご支援を頂き、医学書院の系統別看護師国試問題WEBフルプランを導入しました。看護学実習では施設間の感染対策の違いは多少ありますが、患者様とのコミュニケーションや直接看護援助を行えるようになり、以前と近い実習ができるようになりました。コロナ禍中において急速にデジタル化が進みましたが、その利点も活用しながら対面授業・実習を行っています。

大学院2年次には長期履修生を含め10名います。研究倫理審査中、データ収集・分析、論文作成、CNSコースでは急性看護学実習と、学修内容は様々です。各院生、就業しながら新たなキャリアアップを目指しています。残念なことに今年度の入学生はいません。皆さんの恩師のいる本学大学院への進学を是非考えてみてください。教職員一同、心よりお待ちしております。

## 同窓会役員

会長	葛谷 直樹	(2期生/平成23年度卒業)
副会長	竹本 史佳	(3期生/平成24年度卒業)
〃	塩見 敦哉	(9期生/平成30年度卒業)
理事(書記)	高野 晴香	(5期生/平成26年度卒業)
〃	山平 佳奈	(7期生/平成28年度卒業)
理事(監査)	伊藤 愛美	(4期生/平成25年度卒業)
〃	福持 愛佳	(4期生/平成25年度卒業)
理事	寺尾 亮平	(2期生/平成23年度卒業)
〃	新田 悠介	(4期生/平成25年度卒業)
〃	山門 美結	(7期生/平成28年度卒業)

理事	下田 楓子	(8期生/平成29年度卒業)
〃	伊藤 優	(10期生/令和元年度卒業)
〃	松浦 美月	(11期生/令和2年度卒業)
〃	水谷 優介	(12期生/令和3年度卒業)
〃	山田 怜奈	(13期生/令和4年度卒業)
〃	赤桐 夏音	(14期生/令和5年度卒業)
〃	柴原 七優	(※1期生/令和5年度卒業)

※臨床検査学科

事務局(会計) ————— 教学課

# 臨床検査学科の現状

## 大学院看護医療学研究科 「臨床検査学専攻」(修士課程) スタート

臨床検査学科長 高崎 昭彦 教授

令和6年3月、臨床検査学科第1期生が無事卒業し、同窓会の一員になれたこと嬉しく思います。今後は第1期生として後輩、現役学生のご指導をよろしくお願ひ申し上げます。学科としては第1期生が残された伝統を継承し、さらに発展を目指し、学生、教員一体となり勉強、実習、研究に励んでおります。

ご存じのとおり、臨床検査技師を取り巻く環境も変化し、医療機関で養成校の学生が実習をする「臨地実習」において、医療機関側も「臨地実習指導者」を配置することが義務付けられ、検査業務の他に学生教育にも積極的にかわる必要性が出てきました。新たな「臨床検査法」の研究・開発も注目されています。「タスクシフト・シェアリング」による業務拡大も積極的に行われており、高度専門技術・知識を備え、学生教育にも従事できる修士(教育、研究者)の養成が急務になっています。その要望に応えるために、本学大学院臨床検査学専攻を2024年4月にスタートさせました。本専攻は「病因解析検査学分野」と「病態解析検査学分野」の2分野から臨床検査学を牽引する研究者、教育者を育成することを目標とします。日進月歩で進歩する最新医療技術に対応でき、また新たな技術を作り出す柔軟な思考力、想像力を活かし臨床検査学の開拓と発展に貢献できる人材を育成します。また併設の看護学専攻と連携し、他分野研究者との共同研究も可能であり、既存の臨床検査領域だけでなく臨床検査技師の新たな領域である「在宅医療」領域の研究も可能であるという特色を持っています。昼夜開講、リモート講義を導入し、社会人の方も学びやすい学習環境を作っています。現在第1期生は6名の社会人学生です。昼間は医療機関で臨床検査技師として従事し、夜間、土曜日に講義・研究に取り組む予定です。現在順調に単位を取得し、修士論文作成に向けた専門性の高い研究テーマを設定し、研究をスタートさせています。本専攻科で学ぶ知識・技術、研究マインド、リーダーシップを兼ね備えた未来の「臨床検査技師」を目指して同窓生の皆様も「大学院」に進学してみませんか?お待ちしております。皆様のご活躍をお祈りしております。

## 教員からのメッセージ

臨床検査学科 千原 猛 教授

2020年4月、1回生の皆さんに初めてお会いした時、私は「1回生の特権はこの学科の伝統を創作できること」と話しました。当時、新型コロナウイルスが一番猛威を振っていた頃で、感染予防のため遠隔講義となり、思い描いていたキャンパスライフとはかけ離れた日々を送られたかもしれません。9月、コロナ対策が少し緩和され、やっと教室での講義・実習が始まり、どのようなスタートを切るか心配していましたが、サークルを立ち上げたり、オープンキャンパス活動など、自分たちの形を模索しながら取り組む姿が見られ、とてもうれしく思いました。中でも3年時に、1回生が中心となり、後輩・教員との親睦を深めようと企画してくれた「臨床検査学科運動会」は今では恒例行事になりつつあります。

国家試験対策でも、前例のないプレッシャーにも負けず、必死に頑張る姿は、後輩達の国試に対する意識レベルの向上へと繋がっていくと思います。



# 看護学科の現状

## 教員からのメッセージ

看護学科 野内 香純 講師

本学をご卒業された皆さん、お元気ですか。きっと、それぞれの場所で活躍されていることと思います。今、学生時代に思い描いていた保健師、助産師、看護師像には近づけていますか。皆さんは大学で自分なりの看護観を見つけ、大きな夢を持って就職されたかと思います。しかし、社会人経験の浅いうちは慣れない環境での大変さもあるでしょうし、経験を積まれた方は、より高度な看護技術の習得を目指すことや自身への責任が増すことでの重圧もあるでしょう。思っていたような看護ができず、理想と現実の狭間で揺れ動く日もあるかもしれません。また、看護とは関係のないところで自分のこれからについて悩むこともあるでしょう。そんな時は一度立ち止まり、自分を支えてくれる人と温かな時間を過ごしてください。あなたを支えてくれる人のなかに、縁あって皆さんと関わった教員を少しでも思い出してくれることを願っています。そして、皆さんのこれからの更なるご活躍を期待しています。



## 同窓会メッセージ

看護師 佐藤 七海 (旧姓: 中林) (平成22年度卒業) 伊勢赤十字病院

私は大学を卒業後、伊勢赤十字病院に勤務して13年目となります。新卒で配属されたのが小児科で、約6年間勤務しました。そこでは新生児から高校生までの急性期、慢性期疾患、手術目的などの患児や在宅で医療的ケアが必要となってくる重症心身障害児の医療的ケアの指導などをしてきました。健康に生まれ育ってきた子どもが突然病気により医療的ケア児となってしまう、在宅で医療的ケアが必要となった子も何人かいました。入院中だけでなく退院後も訪問看護師とともに子どもの状態の変化に合わせて、家での生活が大きく変化した家族の家へ訪問をして退院後の生活にも寄り添ってきました。その後ICU/CCUへ移動となり7年が経過しようとしています。ICU/CCUでは新生児から高齢者、ターミナル患者に対して生命の危機に瀕した重症患者の全身管理とケアを行なっています。また、伊勢赤十字病院と三重大学で2ヶ月ごとにドクターヘリが各病院で待機しており、市外からも重症な患者が運ばれてきます。ほとんどの患者に人工呼吸器や輸液ポンプや心電図モニターだけでなくECMO、IMPELLA、IABPなどの補助循環装置やCHDFなど持続的血液透析濾過を行う医療機器が装着されています。その管理や操作を行ったり、患者の状態の変化にいかにか早く気づき、すぐに対応できるように知識や技術の向上を目指し、これからも頑張っていきたいと思っています。

**看護師 諸岡 由奈（平成26年度卒業） 市立四日市病院**

私は市立四日市病院のNICUで4年間働いていました。NICUでは早産児、低出生体重児、また何らかの疾患の赤ちゃんがいました。赤ちゃんの状態は様々な日々緊張感の中で仕事を行い、やりがいを感じていました。特に面会に来たご両親は赤ちゃんの状態に驚かれ、不安に対してどう接するか悩むことが多かったです。ご両親の傾聴を行い、赤ちゃんと一緒に出来ることを考え実施し、喜ばれる姿がとて印象に残っています。退院の時に笑顔で帰っていく姿を見ると「頑張って看護してよかった。」と嬉しくなりました。私は切迫早産で入院した経験があります。薬の副作用が強く、体調につられ悪い方向に考えることが増え赤ちゃんのことを心配しながら過ごしていました。そんな中で看護師さん助産師さんとの何気ない会話、励ましの言葉、赤ちゃんは元気に過ごしていることを聞き、気持ちが軽くなっていました。実体験したことで改めてメンタルケアの大切さを学びました。これから看護師として働く上で患者様、家族に寄り添い、入院生活を少しでもより良く過ごせるように勉学に励んでいきたいです。

**看護師 藤本 雅希（平成29年度卒業） 四日市羽津医療センター**

私は四日市羽津医療センターの外科病棟に勤務して5年が経ちました。外科病棟では消化器、泌尿器、婦人科の周手術術を担当しています。術後の全身状態の管理はもちろんのこと術前術後の身体的、精神的な関わり、患者とコミュニケーションの中で患者自身の思いを傾聴して看護をしています。また、最近抗がん剤治療をする患者、ターミナルの患者が増え、患者だけではなく家族の心理的サポートをしつつ、患者が自分の人生を「自分らしく」最期を迎えるように多職種との連携を取り、患者が退院後に患者らしい生活が送れるように支援ができたときや元気に退院される姿をみるとやりがいを感じます。

**看護師 金山 航大（令和4年度卒業） 伊勢赤十字病院**

私は、伊勢赤十字病院に看護師として勤務しています。看護師として勤務し一年半が経ちました。患者様によって、疾患をはじめ生活背景などが異なり、様々なニーズもあります。そのため、すべてのニーズに応えるような個性のある支援は難しい時もあります。その際には、個々のニーズに応えることができるよう、看護師をはじめ医師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等、他職種と連携しながら日々サポートしています。また、急性期の病院であることから、患者様だけでなくご家族も大きな不安や悩みを抱えていることも多いです。そのため、少しでも不安等が軽減できるよう、ご家族への関わり方も日々考え実践しています。今後も急性期の患者様が多い中ではありますが、患者様個々のニーズに応え、早期退院できるように、看護師として日々サポートできるように自己研鑽を重ねていきます。

**保健師 両角 咲（平成29年度卒業） 飛鳥村役場**

私は人口5千人に満たない村の保健センターで保健師として勤務しています。主に健診や保健指導、健康相談等の成人保健を担当しています。現在は特に、地域課題から糖尿病重症化予防のため普及啓発や保健指導など試行錯誤しながら力を入れて取り組んでいます。また、成人保健以外にも母子をはじめ精神、感染症など様々な世代や分野に関わり、助成の申請受付などの窓口業務も行っています。小さなコミュニティなので、つながりが実感でき地域で働く楽しさを感じています。地域で暮らす方々の生活背景や価値観、悩みは多種多様です。これからは皆さんが健康でいきいきと暮らせる地域づくりのために保健師として何ができるか考え、多職種で力を合わせて取り組んでいきたいです。

**保健師 田中 彩恵（平成27年度卒業） 三重県庁**

大学卒業後、三重県庁へ保健師として入庁し、保健所、児童相談所を経て、昨年度より現場を離れ本庁母子保健班にて勤務しています。現在は、「県内どの地域においても妊娠や産婦やその家族が必要な時に必要なサービスを受けることができる出産・育児支援体制」を強化するため、関係機関との連絡調整や人材育成研修の開催等に取り組んでいます。中でも、児童で児童虐待や性被害を受けた子ども達のケアや性教育の経験を通して、誰もが幼少期から正しい性教育を受けられるような環境整備の重要性を強く感じました。そのため、小学生向けに包括的性教育に関するパンフレットを作成し、啓発に取り組んでいます。引き続き、多くの方の力を借りながら、現場で学んだ経験を活かしながらより良い母子保健体制が強化されるように努めていきます。

**助産師 松田 ゆかり（平成26年度卒業） 東京かつしか赤十字母子医療センター**

私は、東京かつしか赤十字母子医療センターで助産師をしています。新卒では総合病院で看護師として3年働き、現在の病院に転職しました。現在の配属先では、分娩室や手術室、MFICU、産科外来を日々ローテーションで回っています。全て救うべき命を目の前に、自分の責任の重さと、それに負けないように知識や技術を習得していかなければという思いで働いています。また、妊婦さん方が、健康で快適な生活を送れるよう、お産や育児に向けて身体を整えるマタニティヨガのクラスも担当しています。今は、マタニティヨガのクラスを通して妊娠中の身体作りに興味があり、勉強中です。今後は、助産師外来に出て、正常な妊娠経過を辿れるような支援ができるようになりたいと思っています。

**助産師 瓜生 果穂（令和3年度卒業） 市立四日市病院**

私は現在、市立四日市病院に就職して3年目になります。配属先は小児科で、今までにNICU/GCUを経験しました。急性期病院の助産師として、患児とその家族に関わる中で、“その人らしさ”は何かを考え、身体面だけでなく精神面へのフォローも重要視しながら、ケアするように意識しています。学生時代は、講義や演習を通して基礎となる知識・技術をしっかり学ぶ事が出来ました。その基礎があるからこそ、悩みながらも自信をもってケア出来ていると感じています。毎日尊い命と向き合いながらやりがいを感じ、楽しく働くことができています。今後も、母子とその家族が健康に、そして幸せになれるよう支援していきたいと思っています。

**助産師 山田 怜奈（令和4年度卒業） 小塚産婦人科**

私は小塚産婦人科で助産師として勤務しています。大学を卒業し一年半が経過しました。主にローリスクの妊産婦にケアを提供させていただいています。母体の健康状態も様々であり、生活背景も個々で異なります。加えて、新生児にも個性がありそれぞれのニーズに合わせた指導を考える難しさを痛感しています。また、この一年半の間で多くの命の誕生に立ち会わせていただきました。出産に同じもの一つもなく、出産に対する思いや希望もそれぞれ異なります。母子の安全を確保した中でその思いを尊重し満足したお産になるよう医師、他の助産師、看護師とも協力しながらひとつ一つの出産に向き合っています。母子両者の命を預かるため責任も大きいですが、ご家族の新しい生活のスタートに立ち会えることが私が助産師になり良かったと思える瞬間です。まだまだ助産師として未熟ではありますが、今後もひとつの出産に真摯に向き合うことはもちろん、妊娠から退院後の生活も含めて母子とその家族が安心して生活できるようなケアを提供できるように自己研鑽を重ねていきたいと思っています。

**臨床検査技師 柴原 七優（令和5年度卒業） 常滑市民病院**

私は大学で臨床検査技師を目指し勉強していく中で、不妊治療、生殖医療に興味を持ちました。臨床検査技師と胚培養士の技術を持ち合わせている病院を希望し現在常滑市民病院で働いています。少子化対策として日本が抱える問題に微力ながら貢献したいと考えています。臨床検査技師、胚培養士どちらの技術を習得するにもまだまだ時間がかかるとは思いますが目標を持ち仕事を楽しみ取り組んで行こうと思います。

**大学院生 蒲野 友香理（令和5年度卒業） 新潟大学大学院**

私は新潟大学の修士課程で法医学を専攻し、日々学んでいます。法医学における検査技師の役割は、解剖助手や薄切標本の作製、血液・生化学検査など多岐にわたります。検査技師として何ができるかを常に考え、検査のことだけでなく、解剖所見についても医師から頼られる存在になりたいと思っています。司法解剖は肉体的にも精神的にも大変なことが多いですが、指導教官や周りの方々の支えがあり、学びたいことが学べる環境にとて感謝しています。現状に満足せず、広い知識を得られるように、これからも精進していきます。

四日市看護医療大学大学院 看護医療学研究科(看護学専攻・臨床検査学専攻 修士課程)院生募集してます！

■研究科・専攻および入学定員

研究科	専攻(課程)	コース	専攻分野・領域	入学定員
看護医療学研究科	看護学専攻 (修士課程)	修士論文コース	看護学基盤分野 基礎看護学 在宅看護学 看護管理学 産業看護学分野 産業看護学 看護学実践分野 母子支援看護学 急性看護学 慢性看護学 老年看護学 精神看護学	5名
			専門看護師 (CNS)コース	看護学実践分野 急性看護学(急性・重症患者看護)
	専攻(課程)		分野	入学定員
	臨床検査学専攻 (修士課程)		病因解析検査学分野 病態機能検査学分野	5名

■募集人員および試験日程

区分	募集人員(I期を含む)		出願期間	試験日	合格発表
	看護学専攻	臨床検査学専攻			
Ⅱ期	一般選抜 社会人特別選抜	5名	3名	2025年 2月10日(月)~2月17日(月) 締切日必着	2025年 2月22日(土)  2025年 2月28日(金)

■卒業生特典

1. 入学検定料 35,000円 ⇒ 25,000円
  2. 入学金 200,000円 ⇒ 100,000円
  3. 授業料 750,000円 ⇒ 375,000円
- ※授業料は就業年限2年の場合の年額

決算報告書(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

収入の部	費目	決算	摘要
	会費収入	4,020,000	同窓会費134名分
	雑収入	209	貯金利息
	当期収入合計	4,020,209	
	繰越金	22,592,731	前年度より
	合計	30,633,149	

支出の部	費目	決算	摘要	
	会員相互の親睦・扶助に関する事業			
	ホームページ管理費	199,540	ホームページ作成・管理	
	卒業生へのサポート	0		
	卒業生への記念品贈呈	201,058	令和5年度卒業生記念品 134名分	
	個別同窓会援助費	0		
	同窓会報、会員名簿に関する事業			
	同窓会報発行費用	338,813	印刷関係(会報印刷・葉書・封筒)・送付代	
	母校への後援に関する事業			
	教育支援関連費用	0		
	母校応援費	0		
	同窓会運営に関する事業			
	事務運営費用(役員会含む)	6,602	事務用品、役員会運営費等	
	総会費用	5,523		
	会費費用	67,000	暁学園連合同窓会会費令和5 年度卒業生134名分	
	会議費用(部屋代等)	0		
予備費				
当期支出合計	818,536			
次年度へ繰越金	27,951,011			
合計	28,769,547			

令和6年度  
四日市看護医療大学  
同窓会総会案内

日時:令和6年10月26日(土)  
13:00~14:00(予定)

場所:四日市看護医療大学 本館30C教室  
内容:これまでの同窓会の活動報告、同窓生の交流

同窓会役員募集中!!!!

皆様の中で一緒に同窓会活動を盛り上げてくれる方を大募集しております。母校を盛り上げたい!イベントの開催や祭好きなど、興味・関心のある方は大学教学課へご連絡ください。

電話番号:059-340-0703  
メールアドレス:kyogaku@y-nm.ac.jp

